

会員だより

75号の河合さん その後

大手前中学校・高等学校 30期 河合 伸明 佳奈子

<http://homepage2.nifty.com/mokufusha~/>



前回の北海道の田舎暮らし、自宅&工房建築そして養蜂の話が都会に住む皆様方には、あまりにも突拍子で珍しかったのかどうか分かりませんが、続編の依頼をいただきました。貴重な誌面にこんな事を書いていいのかな?とも思うのですが、しばらくの間、おつき合い下さい。

さて、「ゲンバ」(工事現場)と呼んでいた我が家も、窓を入れ、木の外壁を張り、塗装してドアを仕込んだらすっかり家らしくなってきました。北海道は春夏秋の6ヶ月と冬の6ヶ月なので、普通に暮らしていてもなんだか慌ただしいのに、工事に、養蜂。それに加えて、5反(1500坪)の畑を借り、野菜作りも本格的に始めたので、体が3つ欲しいくらいです。

そもそも、友人のパン屋さんがパンの仕込みに使う蜂蜜を自分の手で採ろうということから始まった養蜂。それまで蜂蜜を仕入れていた養蜂家のところで何回か作業を手伝って、去年の7月我々のところへミツバチがやってきました。はじめはおっかなびっくり。当たり前の事ですが、巣箱の中はハチだらけ。穏やかな気持ちで作業するとハチ達も殺気立たないそうなのですが、なかなか師匠のようにはいきません。しかし、何回か刺されながらも、100キロもの蜂蜜が採れました。ところでご存知ですか?1匹の働き蜂がその短い一生の間に集める蜜の量。なんとティースプーン1杯ほどなのです。それを知ってから、蜂蜜を食べる時には「ありがとう、いただきます」と思わずにはられません。

6月から8月の間は、採蜜以外の作業はほとんどありません。ハチ達は自立しているので、人間は何もしなくてもいいのですが、8月の後半から10月にかけて、スズメバチが現れる頃は忙しくなってきます。スズメバチは肉食で、ハエなどを捕まえているのですが、巣が大きくなるこの時期には大量のえさが必要となり、手っ取り早くミツバチの巣箱を狙いにやってきます。集団で襲われると全滅ということもあります。秋になるとスズメバチに襲われるニュースをよく聞きますが、この時期は警戒心も強くなっているので、気付かずに巣の近くを通ったりすると襲われる事もあります。

もちろんミツバチも自衛手段に出ます。巣の入り口に、年老いた働き蜂が重なってバリケードを作って、スズメバチがやってくると一斉に飛びかかって追い払おうとするのです。1匹のスズメバチをやっ



けるのに何百匹もやられてしまいます。スズメバチ捕獲器もあるのですが、完璧とはいきません。スズメバチも必死なのでしょうが、花を探して羽根が擦り切れるまで飛び回り、蜜を集めてくれるミツバチのことを思うと、やはりミツバチの味方をしてしまいます。そこで、飛んでくるスズメバチを網で捕まえることにしました。5~6匹捕まえると全く現れなくなるのですが、観察していると木の上の方に止まって人がいなくなるのを待っているようでした。敵もさる者です。こっちも1日中、網を振り回している訳にはいきません。今は白いシャツを巣箱に近い木に引っ掛けていますが、いつ見破られることか…。

田舎暮らしというと、「のんびりと木陰でティータイム」などと、優雅な生活をしていると思われがちですが、自給自足的田舎暮らしは、そうはいきません。基本的に曜日の感覚はありません。平日でも早朝5時から採蜜をし、その後に堆肥用の馬フンを乗馬クラブへもらいに行き、トラックに積み込んで帰ってきて堆肥場に降ろし、畑を片付け、自分の仕事に戻るという日もあります。自分の仕事をしながら、仕事以外にやらなくてはいけない事に時間を割り当て、こなしていく。物質的にも、精神的にも自給自足できなければ、本当の田舎暮らしとは呼べないと思います。まだまだそんな仙人のところへは到達していませんが、まずは引っ越しを済ませて生活の足場をしっかり固めていこうと思います。皆さんがこの記事を読んでおられる12月には、私達も新しい我が家で会報を読んでいるはずですが…。

